１　研究主題

「主体的に学ぶ子供の育成」

～家庭学習と家読の定着を図る方策～

２ 主題設定の理由

（１）今日的教育課題から

昨年度配布された「Ｒ２．１．２４．甲府市立石田小学校の先生方へ」甲府市教育委員会　学力向上専門員（高橋先生）作成資料の「【９】家庭学習の習慣を身につけるために」には，“確かな学力定着のためには，学校での学習に加えて，復習などを中心とした家庭学習の習慣を身につける必要性があることが，学力調査等の結果から明らかになっています。”とある。また続けて，家庭学習を児童のやる気や意思の力で取り組ませるのではなく，習慣の力で取り組むことが継続できるポイントであり，習慣化させるために５つのポイントを紹介してくださっている。

コロナウイルス感染拡大の影響で，家庭で過ごす時間の増えた児童にとっては，まさに主体的に学習に取り組む力を問われるところであるが，私たち教員がどう働きかけることによって家庭の協力を得てそれぞれの児童に家庭学習の習慣を身につけさせることができるかは研究に値するテーマである。

（２）学校教育目標の具現化から

本校では，「自ら学び　認め合い　支え合う　健やかな子」を学校教育目標に掲げ

〇よく考え，進んで学ぶ子

〇相手を思い遣る子

〇健康でたくましい子

をめざして教育活動を進めている。また，スクールプランにある本校の教育課題の中には「家庭での読書」「学習のやくそくをもとにした家庭学習の習慣化」が挙げられており，授業と家庭学習のつながりや，家庭と連携した学習習慣の定着への取り組みが求められている。「学習のやくそく」にもとづいて授業と家庭学習を見直して改良していくことで，主体的に学ぼうとする児童を育成することは，本校の教育目標の具現化につながると考える。

（３）児童の実態から

平成３１年度末に行った学校評価を見ると，多くの保護者は学校に肯定的であり，児童も楽しく学校生活を送っている様子が分かる。一方，課題点として挙げられた点には読書への取り組みについてはよく読んでいると回答した児童が８０％であるのに対して保護者は６６％と認識の差があり，家読をより一層推進し，読書活動の充実を図る必要がある。さらに家庭学習は，児童のさらなる学力向上を図るためにこれまでの各学年の取り組みを学校全体のレベルで整理し，学年の実態に応じた系統性のあるものにすることで，より取り組みやすく効果が期待できるものにしていきたい。学校と家庭との連携の強化が望まれる

家庭学習に於いては個人差や家庭の意識の差が大きい。宿題だけで，「学年×10 分以上」という家庭学習の目標時間を過ぎてしまう児童もいれば，一日に何ページも自主学習ノートに取り組むことのできる児童もいる。家庭学習・宿題・自主学習の認識や扱いについて共通理解を図って家庭への協力や個々への対応をしていくことができるようにと考える。

（４）これまでの研究の経過から

平成２８年度より研究主題を「主体的に学ぶ子供の育成」とし，副題を，はじめの３年間は～思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを通して～として研究を行い，昨年度は～算数科における資質・能力を育成する授業づくりを通して～として研究を進めてきた。今年度については，教科や領域を絞って研究授業を中心に主題に迫っていくという予定であった。

しかし，２月下旬からのコロナ騒動により計画段階の時期には学校再開がされておらず，感染者は増加傾向にある。本校の一年生に於いても入学式を行えていない中，数名は預かりとして教室での自主学習に励んでいるという現状があった。このような状況の中で，これまで研究を進めてきた問題解決型の授業や話し合い，学び合いといった授業を行える見通しをもつことが難しいと考えられる。

これまでも行ってきた家庭学習への取り組みではあるが，家庭で過ごす時間が多くなるであろうことをふまえ，さらに家庭学習の習慣づくりには，児童の個人差が大きいという課題に向き合い，今一度焦点を当てて研究を進めていきたいと考える。

以上のことから，昨年度の研究主題を継続し，家庭学習と家読の定着を図る方策の研究と行うことでその実現を目指していきたいと考えた。

３　研究の内容

（１）各家庭での家庭学習の状況や，児童自身の家庭学習への向き合い方などを把握するために実態把握を行う。

（２）個々の実態に応じた目標を設定し，段階的な支援を検討・実施し，家庭学習の定着・充実をめざす。

①　宿題や読書を中心に，机に向かう時間を習慣化するための支援

②　予習復習を中心に，宿題に代わる内容の自主学習を習慣化するための支援

③　新聞やニュースなど，個々の興味関心に基づいた発展的な自主学習を習慣化するための支援

４　研究仮説

読書を含む家庭学習において，児童の取り組みの状況や家庭での困りごとを確認し，児童自身が家庭学習で取り組む課題を設定できるような支援について検討・実施することで，家庭学習の習慣が身につき，主体的に学ぶ子供を育成することができる。

５　研究組織

全体研究会

研究推進委員会

校長・教頭・研究主任・副研究主任
各部会から部会長　　計７名

習慣化部会
教頭・〇藤田・保坂・向井
伊藤・松井・河澄

予習復習部会
山口・〇土橋・鈴木愛
丸山(恵)・堀・丸山(英)

発展学習部会
校長・五味
〇倉本・笠井・髙木・鈴木

５　研究経過

回	月日(曜日)	内容	形態
1	4 月 17 日(金)	研究の概要に関わる検討・決定	全体会
2	5 月 20 日(水)	研究テーマ，内容，仮設，組織について 電話による家庭学習実態調査の考察・意識アンケート CATV 用の授業検討（推進委員）	各自
3	6 月 10 日(水)	研究の概要について 家庭学習実態調査（電話の聞き取り）結果について 昨年度の宿題や自主学習について 学習のやくそくについて・児童への意識調査について CATV 学習支援動画について	全体会 部会
4	7 月 21 日(火)	学習支援動画撮影報告・保護者向けお便りについて アンケート結果を受けての考察/意見交換 各部会の支援策について	全体会 部会
	8 月 17 日(月)	５校合同研究会（特別支援学習会）　　※中止	小中合同
5	10 月 7 日(水)	家庭学習推進への取り組み（内容決定・準備分担）	部会
6	11 月 24 日(火)	途中経過の情報交換（改善点検討） 各学年での支援について検討	全体会 部会
	12 月 16 日(水)	研究紀要について（提出物の連絡）	職員会議で提案
7	12 月 23 日(水)	研究紀要について・第２回意識調査について ２学期末までの成果と課題について	全体会 各学年
8	1 月 27 日(水)	第２回の意識調査集計 紀要について	全体会 部会
9	2 月 10 日(水)	本年度の成果と課題 来年度に向けて	全体会